



令和元年度 小笠原小学校だより
き ゃ っ か し ょ う こ

2019.10.31 発行
文責 校長 上田 直人

脚下照顧～心を揃えて～

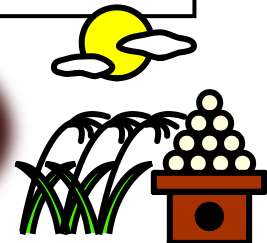
校 訓 「あかるく かしく たくましく」

教育目標 「自分を大切にし、他者を大切にする児童の育成」

[10月号]

実りの秋です！

「文化の秋」三枝亭二郎落語会 笑顔いっぱい！



10月前半はまだまだ暑い日が続いていましたが、次第に秋めいた陽気になり朝晩の気温差が大きくなってきました。そんななか、PTA文化部主催事業「三枝亭二郎さん 落語会」が、10月15日に本校体育館で開催されました。「文化の秋」にふさわしい、日本伝統芸能の一つである「落語」は、テレビの「笑点」で落語家の姿を垣間見ることはできますが、なかなか普段私たちの生活の中で出会うことは少ないと思います。私は、低学年の児童と一緒に聞かせていただきましたが、思わず笑ってしまう場面がいくつもあり、自然と落語の世界に引き込まれていくことを実感しました。子どもたちの様子を見てみると、大きい声で笑ったかと思えば、話の内容に固唾をのみ、また笑いと、噺家さんと会場が一体となった様子が印象的でした。本物に触れるということは何にも勝る経験であることを実感した会となりました。後日、担当の先生が三枝亭二郎さんにお礼状と全校児童の感想をお送りしました。その中から2点を紹介します。

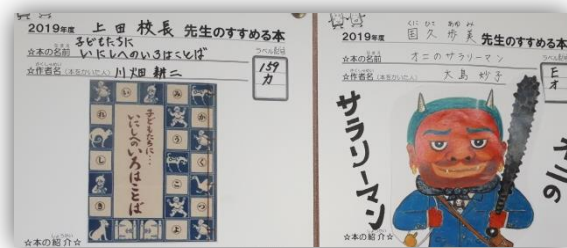


わたしは、はじめてらく語を見ました。らく語がどうい
うのかわかりました。ひょう
じょうや、うごきかたがすご
くうまかったです。たのしい
おはなしがきけてよかったです。
またききたいです。あり
がとうございました。

今日、おいそがしい中小笠原小学校のために
らく語を見せていただきありがとうございます。特に心に残った場面は、おじいさんの役
です。体の動かしかたや、しゃべりかたなどが
おもしろかったです。また、3年生のときから
3年たって再びらく語を見ると、そのすばらし
さをより実感しました。来年は中学生ですがも
う一度らく語を見られたらいいと思いました。

「読書の秋」読書月間 家読していますか？

本校では、司書の先生や図書委員会を中心に10月を読書月間と位置づけ、様々な取組を企画してくれています。私は、本の紹介と3年3組での読み聞かせの活動に参加しました。私のお勧めの本は、「子どもたちに いにしへのいろはことば」という本で、明治維新の中心となった薩摩藩の藩祖とも言うべき、島津日新公が、君主として必要な心得をいろは歌にして残したものです。後に薩摩藩特有の郷中教育の教科書としても使われた物を、子どもにわかりやすく解説した本です。また、本校は県から「オリンピック・パラリンピック推進事業」実践校として指定を受けている関係で、図書館に関連する本を購入しオリンピックコーナーを設置する予定です。ご家庭でも、この機会に本について話す機会や、子供と読書する「家読」の機会を作っていただければ幸いです。



「食欲の秋」小笠原小農園 収穫祭です！

本校では、地域の方からご好意でお借りしている畑で第38代校長 渡邊正義先生のご指導のもと、1年生がサツマイモ、2年生がジャガイモ、大根、3年生が枝豆（大豆）を栽培しています。先日、1年生が“サツマイモ掘り”を行い、その後渡邊先生をお招きし、収穫祭を行ないました。私も参加させてもらいましたが、校歌の替え歌「お芋の歌」や、「お芋クイズ」「お芋の成長紙芝居」等盛りだくさんで、畑での活動から多くのことを学ばせて頂いていることに、改めて感心しました。渡邊先生にプレゼントを渡したところ、先生から歌のお返しをいただきました。これにもみんな大感激でした。来月は2年生が大根の収穫を行い、これで今年度の農園での活動も終了となります。多くの皆様の御協力と、天の恵みに感謝したいと思います。



「スポーツの秋」6年生躍動！

10月23日（水）、楡形総合公園日世スタジアムにおいて、第4支会（旧楡形・甲西・若草）の小学生陸上記録会が行われ、9小学校の6年生全員が、何らかの種目にエントリーし陸上競技の試合に挑戦しました。

本校の6年生は、9月の運動会取組中から、体育の授業や休み時間を使って記録を測って種目決めをし、運動会の次の週からは毎日のように練習に励んでいました。当日は、競技していてもスタンドで応援しても、小笠小児童として誇りと自覚を持って行動することができました。他の8校の児童も、競技も応援も全力で取り組み、お互い刺激し合い素晴らしい雰囲気の中で大会でした。最後に行われた名刺交換でも、初対面の他校の児童と一生懸命コミュニケーションを図ろうとする姿が見られました。中学入学を前にして、各自が色々と学ぶことのできた一日になったと思います。

男	100m	1位渡邊修斗 6位春日一吹
	1000m	2位保々遼斗 4位藏野広嵩
	走高跳	5位常盤歌佑 8位酒井佑真
	走幅跳	5位太田健介 8位山本響生
子	ボール投	4位芦沢慎太郎
	リレー	4位小笠原小A (春日一吹 酒井佑真 藏野広嵩 渡邊修斗)
		2位小笠原小B (笠井裕大 太田健介 保々遼斗 山本響生)
女	100m	4位横内咲良
	60mH	3位名取夏希
	800m	1位小笠原 羚 6位新津咲奈 8位渡邊彩那
	走高跳	6位宮川和華
	走幅跳	1位井上みなみ (大会新記録) 2位小川穂乃実
	ボール投	7位竹内稀良
	リレー	2位小笠原小A (宮川和華 小笠原羚 小川穂乃実 井上みなみ)



「One team」を合言葉に、日本中に感動の嵐を巻き起こしたラグビー日本代表の戦いに、心打たれた方も多かったのではないだろうか。明らかに体格で勝るアイルランドやスコットランドといった強豪国に、真正面から挑み互角以上の戦いをする選手たちの、体を張ってお互いを支え合う自己犠牲の姿に、忘れかけていた何かを思い出させてくれたように思いました。

ラグビーといえば「One for all, all for one」の言葉です。「スクールウォーズ」の主人公の名台詞で有名になった言葉で、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳すことが多いのですが、実は「みんなは勝利のために」が正しい訳だとのこと。一人ひとりがチームの一員として他のメンバーに甘えたり、寄りかかって他のメンバー、大人の集団であることが必須なのだ。つまり、全員で勝つために一人ひとりが全力で役割を果たせ、というひたむきな解りだそうです。

日本代表の激しい戦いの中で、「One for all, all for one」を実践するのは、並大抵な事ではないと誰もが感じています。200日を超える合宿で、自分自身を徹底的に鍛え上げ、体と魂を本気でぶつけ合ったから成しえた「One team」だと、キャプテンのリーダーも言っていました。

日本代表の戦いを見ながら、ラグビーの精神はまさに「生きる力」であると感じました。そして、社会のために自分の役割を全力で果たし、自己犠牲とノーサイドの精神を体現でき、そんな子どもたちを育てたい、育てる義務があると、決意を新たにしたり、涙の南アフリカ戦でした。



棚田の富士（校長雑感）